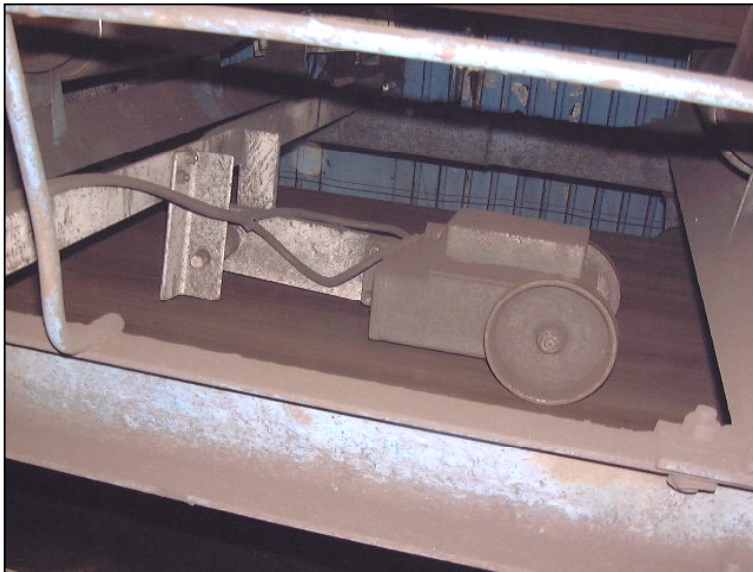


**補修対象設備****コンベヤ石炭計量器**

Fig.5.1-27

**状況**

- (1) 日本の無償援助によるコンベヤ石炭計量器が、貯炭場～バンカへの払出ラインに設置されている。
- (2) 石炭受入量は貨車スケールで計量している。
- (3) 受入直送ラインには計量器がない。

**対策**

貯炭場の受入と直送ラインにも石炭計量器を設置し、石炭受払量を正確に把握できるようにする。

**補修対象設備****石炭分析装置**

Fig.5.1-28

**状況**

- (1) 燃料運転課が石炭受入時に石炭のサンプリング及び分析(カロリー、灰分、湿分)を行っている。
- (2) 払出しは、24時間毎の石炭分析を行っている。
- (3) 現在使用している石炭分析装置は旧式である。炭鉱には日本の援助で最新式が導入された。

**対策**

第三者分析機関のないモンゴルでは、旧型の機械による分析データは信頼性を疑われる恐れがあるため、最新式のものに更新し、分析作業の信頼性確保を図る。

補修対象設備

No.3, No.4コンベヤ用TV監視システム

Fig.5.1-29



**状況**

- (1) 自然発火しやすい褐炭を使用しており、各直毎にコンベヤ上の石炭の状況を確認するためにパトロールを実施している。
- (2) 乗り継ぎシュート部の集塵や散水を行っているが、作業環境は非常に悪い。
- (3) 冬季は気温が低下するので、現場パトロール員の負担になっている。

**対策**

特に作業環境が悪いNo.3, No.4コンベヤに監視カメラを設置し、落炭や火災の遠隔監視を行う。

補修対象設備

消火システム

Fig.5.1-30



**状況**

自然発火した石炭の消火用にコンベヤ上の石炭に散水可能な自動弁が設置されているが、故障しており、手動弁で対応している。

**対策**

保安対策として、消火栓、熱感知器、現場警報装置を設置する。

補修対象設備

湿式集塵器

Fig.5.1-31



**状況**

乗り継ぎシュートの集塵用湿式集塵装置は現在特に問題は発生していないが、内部は常時湿潤状態であり、腐食が進行している。

**対策**

湿式集塵器を更新する。

補修対象設備

ブルドーザー

Fig.5.1-32



**状況**

- (1) 現在18台のブルドーザーが稼動しているが老朽化している。
- (2) 褐炭の自然発火防止には転圧が必要不可欠であるが、転圧が不十分なため、貯炭場内部が発火している。

**対策**

- (1) 転圧効果の大きい大型ブルドーザーに更新する。(燃料運転課は燃料費削減の観点から電気式を希望している)
- (2) 貯炭場における温度上昇対策をEx 5.1-3(5.1-28)に紹介する。